

圧値のどちらが合併症と強く関連するかは、はっきり分かっていませんが、家庭での血圧値を主治医の先生と相談することは、ドライウエイトを適正にするための一つの情報にな

ると思われます。

(横山啓太郎／  
東京慈恵会医科大学附属病院 腎臓・高血圧内科・医師)

## シャント

**Q2** 最近シャントの一部が膨らんできました。担当の先生に聞いたところ大丈夫だといわれましたが、気になっています。これはどのようなもので、どう対処したら良いのですか。

**A2** いわゆるバスキュラーアクセス<sup>りゅう</sup>瘤<sup>う</sup>と思われます。これには次の2つの種類があります。

①真性瘤

②仮性瘤

①は血管の壁全体が弱くなって大きくなったもので、②は血管の外側に<sup>せんし</sup>穿刺した<sup>あな</sup>孔から血のかたまりである血腫が形成され、そのあと血腫が溶けて血管内腔と交通してできたものです。原因の多くはシャントの同一部位に穿刺することによる血管の傷みであり、さらに穿刺部での<sup>きょうさく</sup>感染や狭窄も関係しています。こぶが小さくて邪魔にならず、破れる危険性が少なければ経過を見ているだけでも構いません。しかし、

①大きくなってくる時

②痛みが出てきた時

③表面の皮膚が薄くなり光沢が出てきた時は、破れる危険があるので外科的手術が必要

です。また見かけが悪いなどの美容的な理由や、衣服の着脱に邪魔になるなどでも手術を行うことがあります。

手術は血管造影やエコー検査を行ってこぶの状態を確認した後、部位や大きさにより局所麻酔で切除して、つなぐ、あるいは全身麻酔で血行再建（バスキュラーアクセス再建やグラフト移植）を行うこともあります。いずれの場合でも、こぶの破裂は大変危険な事態ですので十分な注意が必要です。

また、シャントの穿刺にあたっては、

①同じ部位での反復穿刺は避けること

②止血をきちんとすること

③シャント部を清潔にすること

が大事です。担当の先生と話し合ったうえで、こぶの状態をチェックし、必要に応じて専門医に相談するのが良いでしょう。

(古井秀典／北楡会 札幌北楡病院・医師)